

序論) しもべのイメージ

(8節表示) 今日の箇所では神様はイスラエルのことを「しもべ」と表現しています。みなさんは、「しもべ」と聞いてどのような人をイメージするでしょうか。

権力や自由がなく主人に従属させられている人、賃金が安く重労働を強いられている人、人格を無視され虐待されている人、簡単にいえば社会的な地位が低い人。

「しもべ」ということばはこのような否定的なイメージがあります。しかも、聖書でいうところの「しもべ」とは「奴隷」と訳すことができることばでもありますから、なおさら人権も自由もなくひたすら主人に虐められているような人を想像してしまうのではないのでしょうか。

確かに一般的なイメージとして「しもべ」とか「どれい」という言葉は、そのような人のように思えます。ところが、今日の箇所をみると神様はそういった一般的イメージとは違う意味で「しもべ」ということばを使っているようです。

神様はどのような意味で、私達、神の民のことを「しもべ」といっておられるのでしょうか。今日は神様がご自分の「しもべ」にどのような特権を与えてくださっているのかを聖書から教えられていきたいと思えます。

1) 神と神の民人の関係性 - 友とよばれるしもべ (8-9節)

今日の箇所と 8-9 節を読むと、神様がイスラエルのことをただの「しもべ」ではなくって特別な意味で「しもべ」と呼んでおられることがわかります。

41:8 だがイスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしが選んだヤコブよ、あなたは、わたしの友アブラハムの裔だ。

41:9 わたしはあなたを地の果てから連れ出し、地の隅々から呼び出して言った。『あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、退けなかった』と。

神様にとってイスラエルは確かに【主】に従うべき「しもべ」でしたが、同時に神様の友アブラハムに連なるものという位置づけでした。イエス様も弟子たちのことを「友」とよばれましたが、みなさん、【主】の友となるということはどれほど素晴らしいことでしょうか。

友とは、単なる知り合い以上に深い絆を持ち、お互いを尊重し、大切しあえる関係を指します。困難な時には助け合い、嬉しい時には共に喜び合う。そして、相手を信頼して委ねる事ができる関係。それが友です。

【主】は神の民のことをそのような「友」と呼んでくださるのです。しかも、私達が神様から「友」と呼ばれるのは、私達が【主】のために何か素晴らしいことを

したからではなく、【主】ご自身がアブラハムを偶像が支配している地ウルから選びだしたように、神様が「地の果」つまり神様のご支配が及んでいないと思えるようなところから、一方的に私達を選びだし、友としてくださったから、私達は【主】の友と呼ばれることができるのです。

みなさん、このように神様のしもべは、神様に「友」とよばれる「しもべ」であり、神様の選びの恵みによって特別に「友」としての特権を与えられた存在なのです。

2) 友とされたしもべの特権

では、そのように「友」とされた「しもべ」の特権とはどのようなものでしょうか。神様はそのしもべのために3つのことをしてくださると言われています。

-1 敵を無くしてくださる。(11-13 節)

第一に神様は敵をなくしてくださいます。11 節と 12 節をよみましょう。

41:11 見よ。あなたに向かっていきり立つ者はみな恥を見て辱められ、あなたと争う者たちは無いものようになって滅びる。

41:12 あなたと言い争う者を探しても、あなたは見つけることができず、あなたと戦う者たちは、全く無いものようになってしまう。

私達の人生には様々な敵が登場します。このイザヤ書が書かれた当時のイスラエルの敵であった「アッシリア」や「バビロン」のように実際的に戦いをしかけてくる敵もいるでしょう。それ以外にも、私達自身の弱さであったり、病気であったり、人種差別や偏見であったり、愛する人を奪う死であったり、様々なものが私達の「敵」になります。

でも、神様は【主】のしもべのためにそういった敵を無いもののようにしてくださると書いています。事実、「イスラエル」という国は歴史の中で何回も滅びながらも、それでも事あるごとにその民が集められ、現在も様々な問題を抱えながらも存在しています。対して、そのイスラエルを苦しめた「アッシリア」や「バビロン」はどうでしょうか。遺跡として過去に存在していることは確認されていますが、もはや「アッシリア」や「バビロン」という国は残っていません。

このように神様は、私達の敵を無いもののようにしてくださるお方なのです。

-2 弱い者を強くしてくださる。(14-16 節)

更に神様は【主】のしもべのために「弱い者を強くしてくださるお方」でもあります。14 節から 16 節を読みましょう。

41:14 恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。
——【主】のことば ——あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。

41:15 見よ。わたしはあなたを鋭く新しい両刃の打穀機とする。あなたは山々を踏みつけて粉々に砕き、丘を^{もみから}籾殻のようにする。

41:16 あなたがそれをあおぐと、風が運び去り、暴風がそれをまき散らす。あなたは【主】にあって喜び、イスラエルの聖なる者によって誇る。

(1 4 節表示) 神様はイスラエルのことを「虫けらのヤコブ」といっています。「虫けら」っていわれると馬鹿にされているみたいに感じますが、元のヘブル語は「少ない」とか「わずかな」という意味のことばが使われていて、弱く、力のない状態を表現しています。

アッシリアやバビロンに苦しめられていたイスラエルは確かにそれら大国に比べれば虫けらのような弱く力のない存在でした。でも、神様はそのような力のない者を、山々を踏み砕くことができる脱穀機のような存在にするとされています。

みなさん、山を砕くことができる脱穀機ってどんなものでしょうか。私は山を砕くことができる機械といわれて、これをイメージしました(絵を表示)。これはバケット ホイール エクスカーベーターといって岩石の粉碎や鉱石の採掘などに使われる機械です。まさに山や丘を切り崩してしまいう巨大な機械、それがこれです。

神様は虫けらのように小さい【主】のしもべを、この機械みたいに圧倒的な力で山を切り崩すことができる。そうゆう力強い存在にしてくださるのです。

-3 貧しい者を見捨てず自然環境さえも変えてくださる。(17-19 節)

さらに【主】がご自分のしもべのためにしてくださることは、自然環境さえも変えてくださるとされています。17 節から 19 節を読んでみましょう。

41:17 苦しむ者や貧しい者が水を求めてもそれはなく、その舌は渴きで干からびる。わたし、【主】は彼らに答え、イスラエルの神は彼らを見捨てない。

41:18 わたしは裸の丘に川を開く。平地のただ中には泉を。荒野を水のある沢とし、砂漠の地を水の源とする。

41:19 わたしは荒野に、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブの木を植え、荒れ地に、もみの木、すずかけの木、^{ひのき}檜をともに植える。

ご存知のようにイスラエル地域というのはちょっと歩けば、砂漠や荒れ地に囲まれているところです。ですから、人々にとって水とはいのちそのものであり、その

水を得ることができないということは、死ぬことも同然でした。

そのような中で、神様はご自分のしもべのために、裸の丘に川を開き、平地に泉を、荒野に沢を、そして、砂漠に水源を用意してくださると言われています。そして、高級な木材である、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブの木などを植えて、苦しむ者や貧しい者を助けてくださると言われています。

みなさん、神様は、ご自分のしもべのためにはその人たちがおかれている環境さえも変えてくださるお方なのです。

みなさん、みなさんが今おかれている環境はどのような環境でしょうか。よい上司や部下に恵まれた環境でしょうか。経済的に満たされた環境でしょうか。すべての必要が満たされている環境でしょうか。【主】はご自分のしもべが、苦しみや貧困の中にいるのを見捨てずに、その環境を変えて助け出してくださるお方なのです。

みなさん、このようにみえてみると。神様のしもべというのはとっても恵まれた存在であることがわかります。「しもべ」という言葉が使われていますが、実際には【主】によって敵を無いものにされ、弱くても強くされ、環境さえも変えてもらえる。【主】に保護されている存在。・・・それが神様に共と呼ばれる【主】のしもべなのです。

本当は、私達が【主】に仕え、【主】のためにあらゆることをするべきなのに、【主】ご自身が、私達のためにあらゆる助けと守りと救いをくださる。そのような特権に預かっているのが、神様のしもべなのです。

3) しもべがするべきこと

では、そんな【主】のしもべである私達が「するべきこと」とはなんのでしょうか。

-1 恐れない。

それは【主】以外を恐れることを辞めることです。10節、13節、14節を読みましょう。

41:10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

41:13 わたしがあなたの神、【主】であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』という者だからである。

41:14 恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。
——【主】のことば——あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。

神様は【主】のしもべに対して繰り返し、繰り返し「恐れるな」と言われています。13節には「わたしがあなたの神、【主】であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』と言う」と言われていますが、神様はこの世のあらゆるものを見て恐れる私達に対して、私達の手を握りしめて「恐れるな」と励まし続けてくださるお方です。

私自身、小学校のころ虐められたり、それ以降もあらゆる恐れに支配されそうになったりしたときこの10節の「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」というこの御言葉に何度も励まされ、恐れを乗り越えて前に進むことができました。ちなみにここでいう「義」とは「勝利」と訳すことばできるヘブル語が使われています。だから、「わたしの勝利の右手であなたを守る」とそういつてくださっているのです。

【主】はしもべのために、「義の右手」・・・「勝利の右手」を差し伸べてくださり、恐れを乗り越えるために励ましの声を掛けてくださり、実際に敵の手から私達を救い出してくださるお方です。だから、私達はその恐れの対象をみるのではなく、私達の【主】であり、友とよんでくださる神様に目を向けて恐れるのではなく、【主】に希望を置くことが大切なのです。

みなさん、ここで大切なのは「恐れない」ということは、感情的に恐れることを辞めることではなくって、私達を助けてくださる【主】を信じ、【主】のみわざに期待するということなのです。わかりますか？恐れているものから神様へと視点を変えるということです。私達は感情的に一生懸命自分の恐れを抑え込もうとしてもその恐れを捨てることはできません。そうではなくって、私達を恐れさせるものに目を向けるのではなく、助け主である【主】に目を向け、【主】に信頼する。私の尊敬する趙ナムス先生流にいうと、【主】の助けに賭けることが、この世のあらゆるものを「恐れない」ことに繋がるのです。

だから、今日の箇所の中で神様はなんといわれているかということ、こう言われています。20節

41:20 それは、【主】の手がこれを行い、イスラエルの聖なる者がこれを創造したことを、彼らが見て知り、心に留めて、ともに悟るためである。

なんで神様が、敵を無にし、弱いものを強くし、自然環境さえも変えてくださるのか。それは、この世界を創造主なる神様を神の民が知り、私達がいつもこのお方のことを心に留めて、この創造主なるお方のことを悟ることができるようになるためなのです。「恐れ」ではなくって「神様に心が満たされる」そのようになるために【主】は「しもべとしての特権」を私達に与えてくださるのです。

結論)

みなさん、私達は様々な敵に直面し、様々な恐れに直面します。

でも、私達のご主人さまは、私達のことを「友」と呼んでくださり、私達のために敵を倒し、私達を強め、環境をも変えてくださる。この世界の造り主なるお方です。私達はこれほどのお方に守られ、励まされて、【主】のしもべとしての歩みをするのです。

だからみなさん、恐れることをやめましょう。

自分がクリスチャンであることを伝えようとして恐れを感じた時、創造主なる神様に目を向けて、【主】が助けてくださることを信じましょう。

人に伝道しようとするとき恐れを感じるのならば、私達を強くしてくださる【主】に期待して、恐れるのをやめましょう。

4月になり、新しい歩みをすることに恐れを感じるのならば、私達を愛してくださる【主】を信じて、恐れるのをやめましょう。

私達は、創造主なる神様、救い主なるイエス様、助け主なる聖霊さまのしもべです。私達のご主人さまのことを考えれば、この世のあらゆるものは恐れる必要がないのです。恐れのもとより、私達の【主】に目をむけていきましょう。